

STUDY TOUR in New Zealand

2020

ASUWA English Course



No.7 February 15, 2020

【ホストファミリーと休日】

土曜日は学校が休みだったのでそれぞれのホストファミリーとゆっくり過ごしました。いろいろなところに連れて行ってもらうなど、様々な経験をさせて頂けたようでした。

〈生徒からのコメント〉

近森天音 ～Title : Japanese class in NZ～

今日の授業は2時間とも日本語の授業を受けました。1時間目は、日本語の文章をリットンの生徒の子が理解できるように、分からない単語を英語で教えてあげました。日本語には第一人称が「ぼく」と「私」があって英語には「I」の1つしかなく、また、「お父さん」「お母さん」「おばあさん」など“さん”の付く名前が多いので、誰かの名前かと思うそうです。この2つのことについて少し難しそうでした。2時間目は、「ガウコ」という子ども向けの日本のアニメを見ました。このアニメは簡単な日本語が使われていて学びやすいそうです。この授業では字幕を日本語にして、それを音読し、翻訳しました。私たちはリットンの生徒の間に座り、手助けをしました。みんな私たちの助けなどいらないほど日本語が上手でおどろきました。特におどろいたのは漢字まで読めていたことです。今日の授業を通して、リットンの子と一緒に勉強することで、自分自身にとってすごく英語の勉強になりました。授業が終わると、隣に座っていた2人の女の子から「ありがとう」と言われて、すごくうれしかったです。こちらこそありがとう。

寺島ジロム ～Title : 初ホームステイ in New Zealand～

出国日から6日が経過しました。ホームステイは4日を経過しようとしています。ギズボーンはのどかで自然が豊かなところですが、しかし、自販機や気候面では雨はほとんどないように見られます。朝は寒く、昼は暑く、夜中も寒いという2月のニュージーランド、ギズボーンでの生活は良いです。残り2日のギズボーン研修で得たものは大きいです。特に文化です。自然豊かなギズボーンでは牧場を営んでいる人が多く、家畜を飼っている家庭が多いです。また、これはニュージーランド全体の特徴ですが、標識などの公共物に、英語とマオリ語と一緒に書かれています。しかし、ニュージーランドの人々の中の一部のみしかマオリ語を完璧に喋れる人がいないようです。まるで日本のアイヌや琉球文化のような少数文化の立場にあることがわかりました。おまけとして、今日がニュージーランドの人々にとって良い日だというらしいので、その特別な日を教えましょ

う。今日はキャプテン・クックが殺害された日だそうです。人が殺された日を祝うことはおかしいと思います。キャプテン・クックはニュージーランドの開拓者でもあり、実は、破壊者としても見られているからニュージーランド人（マオリ中心に）にとって彼が殺された日はアメリカという独立記念日と同じ感覚だそうです。以上です。

畑咲彩 ～No Title～

今日は午前中にファーマーズマーケットに行きました。色々なものが売っていてとても面白かったです。梨はそのまま「NASHI」と書いて売っていました。ママが買ってくれました。ニュージーランドの人は、フルーツの皮をむかずにそのまま食べるので驚きました。そのマーケットで日本人が出しているワゴンがあって、そこには春巻き、肉まんや餃子などがありました。私たちは春巻きを食べました。皮がとてもパリパリでおいしかったです。その後にコットンオンという服屋さんに行きました。そこで自分の服を買ったり、友達にあげるお土産を買ったりしました。とても楽しいショッピングになりました。午後からは、海に行って、サーフィンをしました。初体験で立つのがこわかったけれど、少しだけ立てたので良かったです。サーフィンはとても難しいスポーツだなと思いました。家に帰ってから、巻き寿司を作りました。初めて作ったのであまり上手くは巻けませんでした。具材は、エビやチキン、スモークサーモンやアボカド、きゅうりなどを入れました。みんな結構小食なので全部食べられるか不安でしたが、みんな美味しそうに食べてくれたので、とても嬉しかったです。